

2/22朝日

はだしのゲン なぜ教材から外す。

高校教員

(愛知県 52)

故中沢啓治さんの漫画「はだしのゲン」が、広島市の小学3年生用の平和教育教材から外されるやうだ。生活苦の中、浪曲で日餼を稼ぎ、身重の母に食べさせようとロイを盗み、生き抜くとする主人公ゲンたちの行為を描写した画面。市教委は「被爆の実相に迫りにいく」と判断したというが、それなら別の場面を使つてはどうか。

はだしのゲンは、原爆の爆風と熱のすさまじさ、放射能による原爆症の恐ろしさを生き生きと描き、まさに被爆の実相に迫る名作である。世界

24回話と翻訳。日本で長く教材として使われてきたのは、普遍的真実が描かれているからではないか。

いったん戦争になればどんな人間も理性が狂わされ、利己的な存在になります。△法律が知らない間に為政者によって都合よく変えられ、人間を踏みにじる」と△美辞麗句のスローガンを刷り込まれ、同調圧力によりて思考判断できなくなる怖さ。

戦時下の人間の愚かさとそれを繰り返さないための教訓を、これほど迫力で訴えてくる本作品は、将来的に古典として読み継がれうるほどなのだ。しかし教材から次第に外されていくのが残念でならない。